

## 太陽光発電施設の設置にあたっての配慮事項

項目		配慮事項	配慮した内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないように、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	敷地は高台にあり周囲をほぼ林に囲まれているため、外部から見通せない位置にパネルを設置した。
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、必要に応じて完成予想図の作成(シミュレーション)等の実施を検討する。	1.8km離れた稲荷山公園の展望台から視認できるので完成予想図を作成した。
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	隣接地との間に法面があるので十分な離隔を取った。
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	敷地内に十分な幅の管理道路を設けパネルを複数に分割した。
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	パネルの最低部分を0.5m、最高部分を1.3mとした。
		(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。	敷地外から見通すことはないと思われるが、パネル角度は10°とした。
	形態・ 意匠	(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。	10°の角度で揃えて配置した。
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。	10°の角度で配置した。
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。	敷地外からは見えにくいと思われる。

項目		配慮事項		配慮した内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を 施す等、太陽光の反射を低減する対策を 行う。また、素材の結晶が目立たないも のを選択する。		低反射のものを選択した。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩 度の目立たないものとする。		黒色を選択した。
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	アルミ製の反射しにくいもの にした。
			(2) 太陽電池モジュールと同 系色を用いる。	黒色とした。
付属設備	(1) フェンス等については、色彩、形態・意 匠に配慮する。		景観に配慮しグレーベージュ (10YR6.0/1.0) とした。	
	(2) 電柱電線類については、極端に増加させ ないよう、低減に努める。		必要最小限の本数とした。	
	(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧 器等の付属設備については、色彩等に配 慮する。		グレーベージュで統一する。	
敷地の緑化	(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発 揮できるよう、根巻きを行った苗などの 使用を検討するとともに、植栽間隔や苗 木の大きさに配慮する。		特に北斜面の広葉樹(コナラ) を保存する。	
	(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低 木性の樹種を避け、地域に適した植生と する。		周囲のコナラを保存する。	
その他	(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地 に反射光の影響が懸念される場合は、配置 や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へ い措置について検討する。		隣接の臼田学園に反射しない 角度で設置する。	
	(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を 行うなど、適切に維持管理を行い、景観の 保守に努める。		遠隔監視システムによる常時 の監視から、年に1回の精密 点検、年に2回の定期災視点 検を行う。	

なお、上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。